

ロジクール SCRIBE : ハイブリッドワークスペースでホワイトボードを使ったコラボレーションを実現

困難な課題に対するシンプルでエレガントなソリューション

logicool®



はじめに

オフィスの新たな形態としてハイブリッドワークスペースが定着しつつあります。週5日間、ほぼ全員が出社するという勤務形態に戻る見通しはまったく立っていません。ただ、ハイブリッドな働き方には依然として課題や克服すべき障壁があります。多くの企業やIT部門が今最も知りたいことは、離れた場所にいるチームをサポートしてコラボレーションを中断なしに実現する方法です。

分散したチームがコラボレーションするには、テクノロジーソリューションが必要です。ウェブカメラ、会議用カメラ、ZoomやMicrosoft Teamsなどのクラウドビデオプラットフォームによって、人々は場所を問わず対面で会議を行うことができます。しかし、効果的なコラボレーションにはビデオ会議以外のツールも必要です。

たとえば、ホワイトボードです。ところが、ホワイトボードが使用されるのはたいてい、人々が実際に同じ場所で会議をする場合のみです。アナリストも指摘しているように、リモート勤務の従業員はホワイトボードを活用してその場で簡単にコラボレーションすることができません。

ハイブリッドワークスペースにホワイトボードを取り入れるにはどうすればよいのでしょうか。本ホワイトペーパーでご紹介するように、ホワイトボードはチームのコラボレーションにきわめて有用です。これまで、リモート勤務の同僚との会議でホワイトボードを従来通り活用しようと、場当たりの方法や高価なソリューションが多く用いられてきました。本ホワイトペーパーでは、ビデオ会議にホワイトボードを取り入れるためにこれまで取られてきた方法と、それらの方法がうまくいかなかった理由を解説した後、この課題解決を試みるIT部門に最適な、シンプルかつエレガントでお手頃価格のソリューションを1つご紹介します。

ホワイトボードのパワーと制約

会議室に必ずと言ってよいほどホワイトボードが設置されているのには、2つほど理由があります。それは、実用性が高いため、そして人々に愛用されてきたためです。

ホワイトボードは会議でよく使用されます。これは、特にブレインストーミングやアイデア出しにおいて、明らかに重要な機能を果たすためです。ホワイトボードは、図やコンセプトのイラストを描いたり、自由にメモを取ったり、付箋紙を使って考えを整理したり、授業をしたり、従業員をトレーニングしたりする場合に役立ちます。コラボレーションツールにはもちろん、PowerPoint、Google ドキュメント、Excelといったものもあります。ただ、会議で手早く簡単にアイデアを伝えたい、コンセプトを図で示したい、即席のブレインストーミングを始めたいというときに人々が手を伸ばすのは、ホワイトボード用マーカーです。ホワイトボードは気楽でなじみ深く、使いやすいツールです。

会議がバーチャルに行われることが増え、リモートからの参加者が会議室内の参加者と同じくらい多くなってきた昨今、ホワイトボードは従来ほど活用されなくなってきています。会議の主催者はビデオ会議にホワイトボードを取り入れようと努力していますが、以下の理由から大抵は失敗に終わっています。

- ホワイトボードがカメラの画角に収まらないことがあります。その場合、ボードの内容がリモートの参加者から見えなかったり、ビデオに写らなかったりします。
- ホワイトボードがカメラの画角に収まったとしても、ボードに対するカメラの角度やレンズとの距離によって、やはりリモートからの参加者には文字や図が見えにくくなる可能性があります。
- 会議室の照明や窓からの太陽光によるホワイトボード表面のグレアによって、問題が悪化します。
- カメラがホワイトボードをうまく捉えたとしても、書いている人が多かれ少なかれカメラの視界を遮って邪魔になってしまいます。

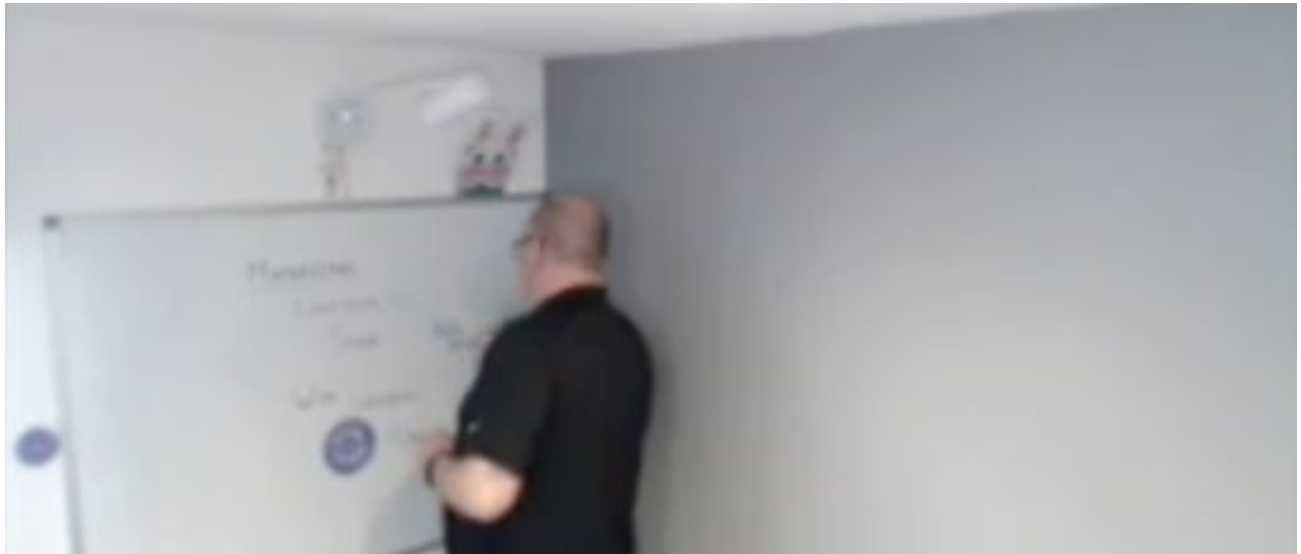
上記で挙げたものは、ビデオ会議にホワイトボードを導入しようとする中で多くの人々が直面し、同時にリモートからの参加者が会議に関与するのを阻んできた最大の課題です。

このような課題には、臨機応変に対処がなされてきました。ホワイトボードは有用であるため、人々はクリエイティブな方法でビデオ会議への導入を実現しようとしてきたのです。

ホワイトボードをビデオ会議に導入するために取られてきたクリエイティブな方法

会議用カメラを向ける

最も簡単な方法は、ビデオ会議用カメラをホワイトボードに向けることです。ただし、ホワイトボードをリアルタイムで会議に活用できるという利点はあるものの、前述のレンズの角度や距離、グレア、障害物が原因となり、この方法はほとんどの場合効果的ではありません。また、ホワイトボードにカメラを向けるということは、会議用カメラの主たる使用目的である「会議室内の人々を写すこと」がおろそかになります。会議中はお互いの顔を見たいものです。



会議用カメラを向けるのは、ほとんどの場合、ホワイトボード共有の方法として効果的ではありません。

ホワイトボードの写真撮る

ホワイトボードの写真撮ってすべての会議参加者に共有するという方法もよく用いられます。しかし、写真が共有されるのはたいてい会議終了後です。したがってこの方法は、リモートの参加者がボードをリアルタイムで見ることができないという、明白な問題があります。かといって、ボードに書き込んでいる最中に随時、写真を撮って送信しようとする、会議の流れを妨げてしまうでしょう。

どちらの方法でも、誰かが書き込んでいる間はリモートからの参加者がディスカッションから取り残されていると感じてしまいます。ビデオ会議にリモートから参加した経験がある方はお分かりでしょう。これでは、ディスカッションに貢献することなく、他の人たちがコラボレーションしているのをただ眺めているようなものです。リモートの参加者にとっては不満を抱かざるを得ない状況と言え、その洞察やアイデアがディスカッションに取り入れられないというのも大きな問題点です。

専用のウェブカメラを追加する

比較的珍しいケースですが、会議室に専用のウェブカメラを追加するという方法も取られます。特製のブラケットで天井に取り付けて、直接ホワイトボードに向けるのです。この方法には、ボードの内容を捉えるという点である程度の有効性があります。

ただし、天井から吊り下げられたカメラの見栄えの悪さはさておき、設置のしかた自体が欠点であると言えます。天井と防音タイルの設計によっては、簡単に天井には取り付けられません。ホワイトボードに対して完璧に位置と向きを合わせて設置するのも難しいでしょう。まして、数十、ときには数百も存在するであろう、組織内のすべての会議室でその作業を行うのは大変です。

インタラクティブホワイトボードの現実性

有用なホワイトボードをビデオ会議に導入するための優れたソリューションが存在しない、という現状を打破しようと、いくつかのテクノロジー企業では上記のものとは別の方法が取られてきました。

インタラクティブホワイトボードとは、専用のペンで書き込むことのできる、従来のホワイトボードの機能を模した大型デジタル画面デバイスです。従来のホワイトボードにはない優れた機能も多数搭載しています。よく引き合いに出されるのは、双方向の対話が可能であることです。誰かが立ち上がってこのデジタルのホワイトボードに直接図を描いたりメモを取ったりしている間、他の会議参加者もノートPCにインストールしたアプリからメモや図を追加することができるのです。

このように優れたソリューションではありますが、制限もあります。

- **複雑さ。** デジタルホワイトボードは新しいテクノロジーのため、使い方などを覚える必要があります。ただし、そのために時間を費やすのは誰か1人で済むため、この点は必ずしも問題となるわけではありません。しかしながら、アナログのホワイトボードはというと、多くの人々にとってすでになじみ深く、直感的に使用できるツールです。
- **価格。** 組織全体のあらゆる会議スペースにインタラクティブホワイトボードを導入しようとする、莫大なコストがかかります。

そのコストと複雑さから、インタラクティブホワイトボードを限られた数しか購入できず、オフィス各所に戦略的に配置する必要が出てくるでしょう。従来のホワイトボードとは異なるニーズを満たすものであるため、使用する機会は、予め計画された形式的なコラボレーションが主となります。この場合、中心となるユーザーが使い方などを事前に学んでいる必要があります。

一方、現在進行中の会議において、成り行きでブレインストーミングセッションやアイデアの視覚化をしたくなった場合、インタラクティブホワイトボードを探し、会議室に持ってきて、会議で使用方法を調べたり、誰かが使い方を知っているかどうかを確認したりすることはまずありません。そもそも空いているデジタルホワイトボードがあるかどうかを確認する必要もあります。こうした状況において、手の込んだテクノロジーは求められていません。人々はただマーカーを手に取りすぐに書き込みたいのです。



ロジクール SCRIBEのご紹介

ロジクールが、ホワイトボードをビデオ会議に導入するソリューションを開発するにあたって主な目標としたのがシンプルさです。ホワイトボードの使いやすさやシンプルさが愛されていることを理解したうえで、その体験を再現し、離れた場所にいるチームが迅速かつ簡単にコラボレーションを行えるようにしようと考えたのです。そうして完成したのが、ロジクール Scribe です。



ロジクール Scribeは、モダンワークプレイスに最適なホワイトボードカメラです。付属の[ワイヤレス](#)共有ボタンまたは会議室コントローラ（ロジクール Tapなど）をワンタッチするだけで、ビデオ会議において瞬時に、抜群の見やすさでホワイトボードの内容をブロードキャストできます。人工知能を搭載しており、遠近感の補正、グレアの軽減、図や文字の強調、ボードに書き込んでいる人を巧みに「排除」する画像の強化が、内部で処理されます。また、Microsoft Teams RoomsやZoom Roomsなど主要なビデオ会議サービスと連携して、ホワイトボードの内容をシームレスに会議で共有します。

SCRIBEがアナログのホワイトボードをデジタルの会議で共有する仕組み

ロジクール Scribeはホワイトボードに特化したAI搭載カメラであり、Microsoft Teams RoomsやZoom Roomsなど主要なビデオ会議サービスにおいて、アナログのホワイトボードの内容をクリアに捉えて共有します。ここからは、その仕組みを詳しく解説していきます。

1. ホワイトボードに特化したカメラ

前述のセクションで、「専用のウェブカメラ」を追加してビデオ会議にホワイトボードを取り入れる方法についてご紹介しました。Scribeは、別の製品を応用したソリューションではありません。レンズからアームやベースのデザインに至るまで、すべてにおいてホワイトボードに特化した設計がなされています。その色さえも例外ではありません。

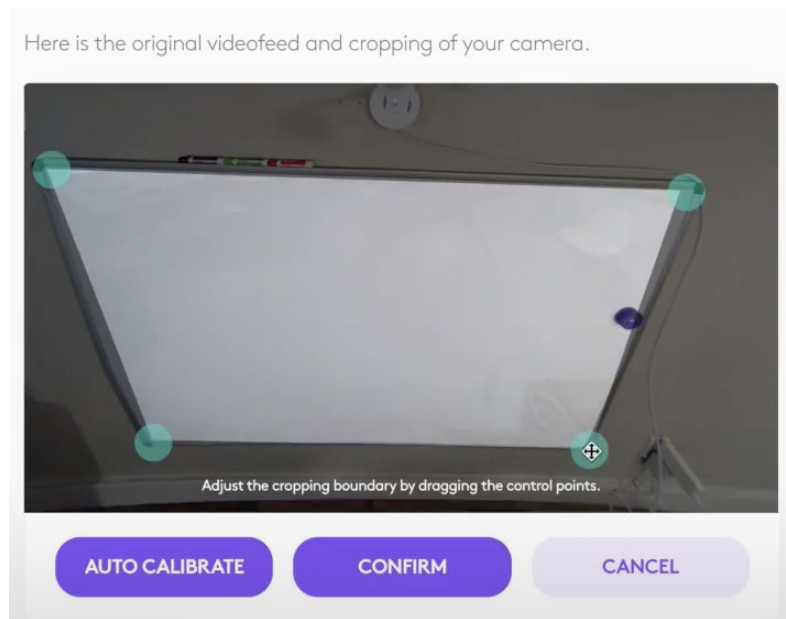
Scribeは、幅2m×高さ1.2mまでのあらゆるホワイトボード板面と、あらゆるホワイトボード用マーカーに対応しています。

2. 人工知能を内蔵

専用のウェブカメラといった他の方法にはない特徴として、Scribeには人工知能を利用するためのコンピュータチップが搭載されており、これによってホワイトボードの画像を強化します。この機能を使用するのに、別のコンピュータや他のデバイスの処理能力は不要です。

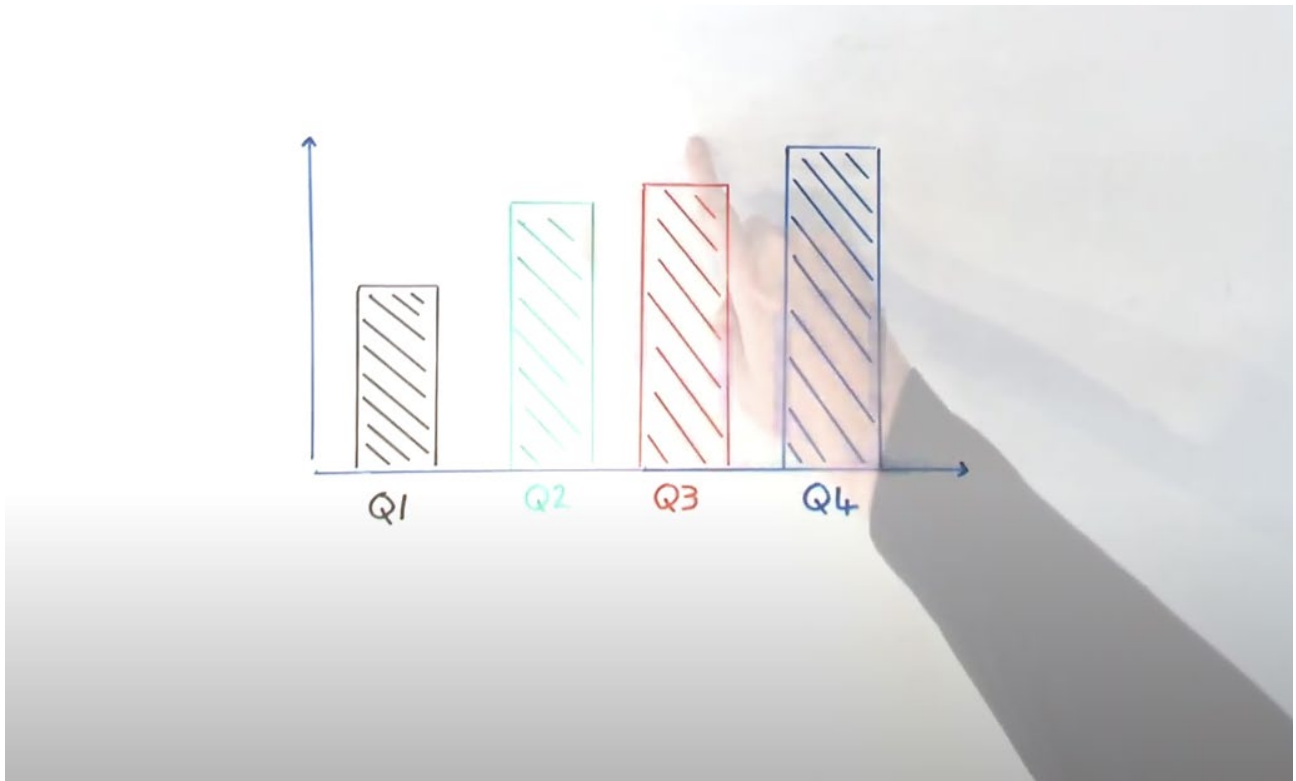
内蔵AIによる画像の強化では、以下の処理が施されます。

- **遠近感を補正します。** Scribeは設置後、ホワイトボードを検知し、自動的にボードの四隅に合わせてカメラを調整します（この調整は手動で変更を加えることも可能）。調整が完了すると、画像がフラットに見えるように歪みを補正します。これにより、すべてのビデオ会議参加者がまるでホワイトボードの真正面にいるかのようにボードを見ることができます。
- **図や文字を強調します。** ボードへの書き込み中は、ホワイトボード用マーカーによる線を自動的に検知して強調表示します。これにより、メモや絵が誰にとっても読みやすいものになります。



Scribeは、ホワイトボードのサイズに合わせてカメラを自動調整します。

- **ホワイトボードに書き込んでいる人を「透過」させます。** Scribeに搭載されているAIがプレゼンターを識別し、CGによる「透過」効果を施すことで、会議参加者は遮るものなくホワイトボードを見ることができるようになります。さらに、会議室内の参加者も常にボードの内容をすべて見ることが可能になります。



ScribeのAI機能により、プレゼンターを透過させて、常に遮るものなくホワイトボードを見ることができます。

- **付箋紙を検知します。** Scribeに搭載されているAIは、ホワイトボードを使ったコラボレーションでよく用いられる付箋紙などの別の形態を検知し、はっきり表示することにも対応しています。

3.ワンタッチでの共有

Scribeの今までにない特徴として、ホワイトボード近くの壁に設置できるワイヤレス共有ボタンがあります。ワンタッチですばやく簡単にホワイトボードをビデオ会議で共有することができます²。直感的に操作できるため、使い方を覚える必要はありません。ロジクール Tapなどの会議室タッチコントローラを使って共有を開始することも可能です。

4.主要なビデオ会議サービスとの連携

Scribeは、Microsoft Teams Rooms on WindowsやZoom Rooms on Windows/Macと連携します。対応するビデオ会議サービスは、今後さらに増えていく予定です（後注を参照）。ロジクールのエンジニアは、MicrosoftおよびZoomのエンジニアと協力して、両社のビデオ会議サービスとのシームレスな互換性を実現しました。Scribeは、USB接続カメラとしてほぼすべてのビデオ会議アプリケーションと互換性があります。

5. シンプルなデザインと設置

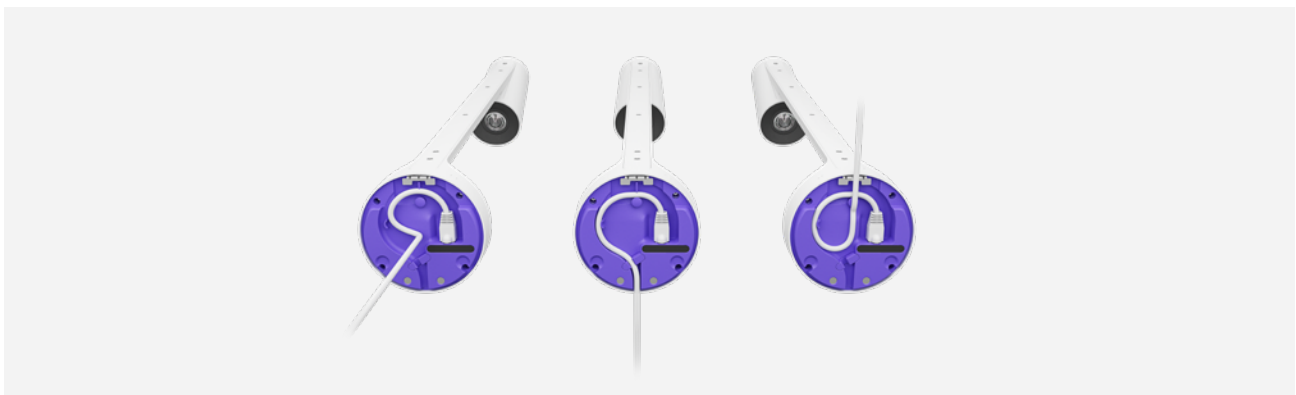
Scribeでは、シンプルかつエレガントで目立たないデザインが隅々まで貫かれています。

壁に取り付ければ、幅2m×高さ1.2mのホワイトボードを捉えるのに最適な位置と角度で設置できます。包括的な取り付けキットにはテンプレート紙が含まれているため、壁面設置の際に勘に頼って作業せずに済みます。ベースに水準器も搭載しているため、非常に簡単に、まっすぐに壁面設置することが可能です。



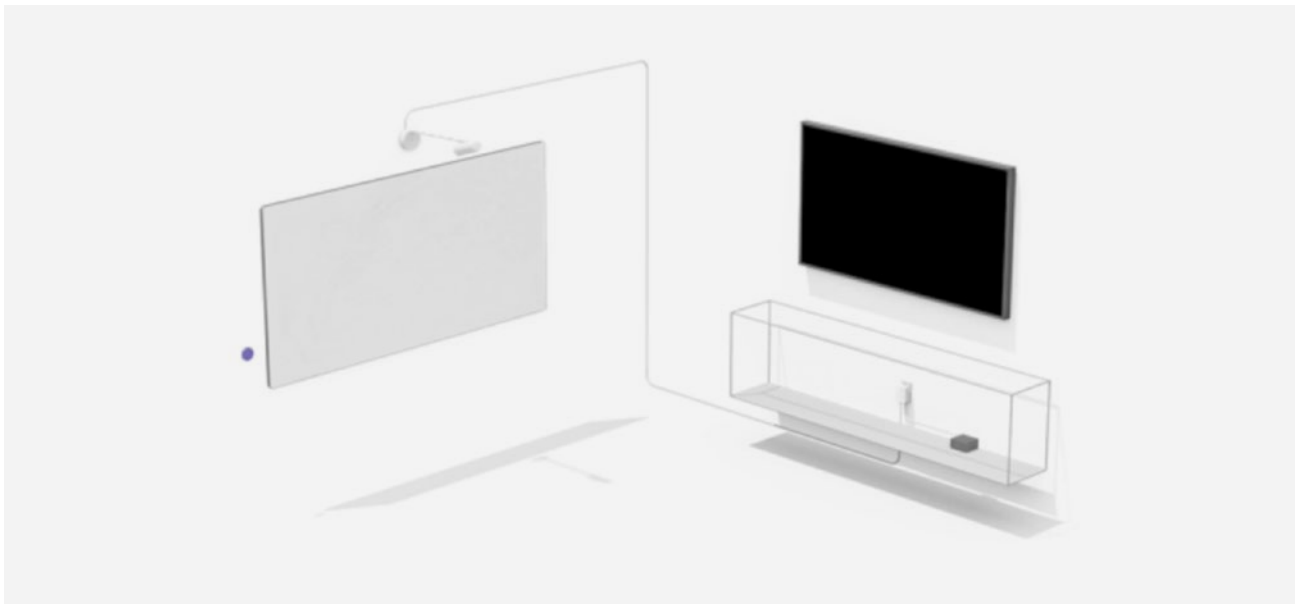
Scribeの設置に必要なものはすべて付属しています。

ケーブルについても配慮が行き届いています。Scribeに付属している2本のCAT5イーサネットケーブルで、ほとんどの会議室に対応します。お客様ご自身で適切な長さのCAT5ケーブルをご用意いただければ、あらゆる大きさの会議室に柔軟にScribeを設置することができます。カメラの上からも下からもケーブルを出すことができ、壁の内部に配線することもできるため、会議室にすっきりと設置可能です。壁内にケーブルを通さない場合は、付属のケーブルクリップ2個を使い、ホワイトボードの縁に沿って90°に曲げながらすっきりと配線できます。



CAT5イーサネットケーブルは壁の内部に通すことも、カメラの下からまたは上から出すこともできます。

取り付けが終わると自動調整が行われ、すばやく簡単にセットアップが完了します。



Scribeのカメラ本体と共有ボタンの設置および配線を示した図。

6.IT管理者によるリモートからのデバイス管理

ロジクールその他のビデオ会議デバイスと同じく、Scribeもロジクール Syncを使って管理できます。たとえば、「プレゼンターの排除」機能のオン/オフや「透過」効果のカスタマイズを行い、プレゼンターを完全または部分的に透過させることが可能です。Syncを利用すれば、IT管理者は会議室内の他のデバイスと一緒にScribeをリモートで監視して、ファームウェアやソフトウェアの更新の有無や、カメラが正常に動作しているかどうかを確認することができます。この機能は、Scribeを大規模に導入している組織において特に重要です。

ハイブリッドチームコラボレーションに最適のソリューション

ロジクール Scribeは、ハイブリッドワークスペースでホワイトボードを使ったコラボレーションを実現するという困難な課題に対処するための、シンプルでエレガントなソリューションとして開発されました。その目的を果たすうえで以下のような多くの利点を実現しています。

シンプルで直感的なユーザー体験

Scribeは使い方を学ぶ必要がなく、使い慣れた従来のホワイトボードをそのままビデオ会議に導入できます。ユーザーは共有ボタンを押すだけでホワイトボードをビデオ会議アプリケーションで活用することが可能です。共有を終了する際は、ボタンをもう一度押すだけです。その他の操作は一切必要ありません。

デジタルホワイトボードとは異なり、新しいテクノロジーとして使い方などを学んだり、使用を開始する際に余計な手順を踏んだりする必要がありません。多くの人々にとってなじみがあり、快適に使えるアナログのホワイトボードとホワイトボード用マーカーをそのまま使用できます。

ホワイトボードの内容のリアルタイム表示

Scribeを使用すれば、リモートでも会議室の中でも、参加者**全員**が存分に会議に関与できるようになります。ホワイトボードの写真を撮って送信する方法では不可能だった、リアルタイムのコラボレーションが実現します。

クリアで遮るものなく表示されるホワイトボード

Scribeは、会議用カメラをホワイトボードに向ける方法とは異なり、クリアかつ高品質な画像を全員に届けます。AIにより、ホワイトボードに書き込んでいる人が「排除」され、歪みや光が補正されるため、参加者全員が特等席に座ることができます。

シンプルな設置と管理

Scribeは、設置用テンプレート、壁面設置用のアンカーとネジ、CAT5ケーブル、海外用変換プラグなど、必要な部品とコンポーネントがすべて付属する、包括的なパッケージで提供されます。また、IT部門やサービスプロバイダーが最小限の時間でセットアップできるよう、配慮の行き届いた設計になっています。[ロジクール Sync](#)を利用すれば、その他の会議室デバイスと一緒に簡単に管理することが可能です。

詳細について

ロジクール Scribeの詳細については、セールス担当者にお問い合わせのうえ、デモの予定をお組みください。

logicool.

販売代理店または当社
(www.logicool.co.jp/vcsales)
までお問い合わせください

購入前のお問い合わせ：
株式会社ロジクール
<https://www.logicool.co.jp/ja-jp/videocollaboration/help/contact-sales.html>

購入後のお問い合わせ：
株式会社ロジクール
カスタマーリレーションセンター
<http://www.logicool.co.jp/contact>

¹ Forrester社のアナリスト、Andrew Hewitt氏によれば、リーダーたちは「ビデオ会議とファイル共有だけに依存するわけにはいきません。…オフィスで、ホワイトボードに図を描き、コラボレーションという要素もあります。率直に言って、今、多くの従業員や組織が見逃しているものです」という認識を持っています。参照：
<https://www.ciodive.com/news/salesforce-hybrid-work-model/594898/>

² 対応状況は、ビデオ会議サービスの提供会社によって異なる場合があります。最新情報については、
www.logicool.co.jp/support/scribe-compatibilityをご覧ください。

このホワイトペーパーは、情報提供のみを目的としています。ロジクールでは、このホワイトペーパーに記載された情報に関して、明示または黙示または法定を問わず、いかなる保証も行いません。このホワイトペーパーは「現状有姿」で提供され、ロジクールによって随時更新される可能性があります。最新版は [ロジクールウェブサイト](#) でご覧ください。

©2021 Logitech, Inc. All rights reserved.

発行：2021年5月